

母子の唄のあひに鳴る

「五月の園に咲く花は

寶石^{ぼく}筥^ぼの華美^{だて}模様^{もよう}

泉水^{いすみ}の岸に鳴く鳥は

魔法の国のつかはし女^め」

母子^{わやこ}の唄のやんだ時

沖の群帆^{むねは}の日はかげり

緑の風がなごやかに

鸚鵡^{わうむ}の籠を吹きぬける

少年
新詩

かくれんぼ

(海国少年5-5所載)

涙ぐましい夕^{ゆふ}がたの

遊び^{あそび}疲れたかくれんぼ

二人^{ふたり}かくれた片^{かた}かげの
乾草^{かれくさ}小舎^{こや}の薄^{うす}あかり

そこはかとなくよつてきて

また遠^{とほ}のいたうす笑^{わら}ひ

草履^{ぞうり}の音^{おと}がなくなれば

壁^{かべ}のくづれの虫^{むし}が鳴^なく

ものさへ言^いはぬ二人^{ふたり}なら

虫^{むし}のなくのもやるせなく

二^{ふた}つの頭^{あたま}をあはせても

おいてきぼりのつまらなさ

何時^{いづ}までるてもあてもなし

さびしくなつてそのまんま

そつとぬけでた樹^きの梢^{うれ}に

あさぎの空^{そら}の暮^{くれ}の星^{ほし}

(海国少年5-7所載)